



サンノゼからのたより 2015-12月



鈴蘭台教会ミサ説教

2015年11月25日

洗礼の時、司祭は、これから洗礼を受ける人に教会に何を求めるかを問います。これに洗礼者は信仰と答えます。続いて、信仰によって何を期待しますかと聞くと、永遠の命と答えます。今日は、西暦300年に生きたアレクサンドリアの聖カタリナを記念してミサを祝いますが、殉教者は信仰の光によって永遠の命を受け、そして、永遠の命にあずかるために、朽ちる肉体を恐れず差し出した者です。

私達の信じる神は、生ける方であり、人間を、御自分の永遠の命に招いています。旧約聖書では「この神は生ける神、世々にまし、その主権は滅びることなく、その支配は永遠、この神は救い主、助け主、天にも地にも不思議な、御業を行う」と言われます。

この世の生き物はすべて、一時的で、また不安定であり死を免れられません。人間もその例外ではありません。しかし、人間の息吹は、全く独特の方法で神から来ます。神は人間を生きたものとするために、命の息吹を吹き入れたのであり、人が死ねば、それは神に帰ります。殉教者たちが神のために敢えて受け入れる死は、彼らを神から引き離すことはありません、返って復活による命にのみ導くものです。



旧約時代、不信仰者は、生ける屍同様、生まれたときから死んだものに等しいけれども、義人は、今現に、神の手の中にあり、いつか、神から永遠の命と栄光の冠を受けるであろうと約束されていました。

そして、救い主イエスの来臨によって、この約束は現実となりました。復活による死から生へのイエスのよみ返りは、主を信じてその死に与るために洗礼を受け、死者の中から生き帰った者として、以降、イエス・キリストに結ばれて神に対して生きることの中で繰り返されます。

こういう人々は、今や御父なる神と、御父なる神から遣わされた子に対する生きた思いと感覚を持っていますが、これこそ永遠の命に他なりません。あかりを手にして花婿を出迎えた10人の乙女のたとえ話のように、主のみ言葉を受け入れる用意のできた心を神に願いましょう。

どうか皆さんお元気で。

主に感謝

植田勝行



サンノゼでの洗礼式

ラファエル植田勝行神父の米国での住所

Saint Clare's Parish Rectory

725 Washington St

Santa Clara, CA 95050

王たる宣教会のホームページ<<http://icrsp-jp.org>>

Email:

ihm.sanjose@institute-christ-king.org